

事務事業評価表（平成28年度）

事業コード	2076	課コード	0707	会計種別	一般会計	予算の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 政策 <input type="checkbox"/> 経常 <input type="checkbox"/> なし
-------	------	------	------	------	------	-------	--

1. 事業の概要 (PLAN)										
(1) 事業概要	①事業名	基本事業 東日本大震災に係る布佐東部地区の復旧・復興 個別事業 布佐東部地区防災施設整備事業	実施計画への位置づけ	○有 ○無		②部課名	都市部・布佐東部地区復興対策室			
	③事業主体	●市 ○その他 ( )		④対象地区	□我孫子 □天王台 □湖北 □新木 ■布佐 □全市					
	⑤事業期間	平成27年度 ~ 平成28年度		⑥担当職員数	3人 (換算人数)		0.4人			
	⑦事業費 (人件費含む)	総事業費	144,385千円	当該(開始)年度	(当初)	6,956千円 (うち人件費 3,560千円)				
	⑧施策の位置づけ	施策コード	61003	重点プロジェクトへの位置づけ	重点なし		基本計画地区別計画への位置づけ	○有 ●無 部門別計画への位置づけ (計画名)		
(2) 目的	施策目的・展開方向	快適でくらしやすいまちをつくるため、地区の特性をいかしながら、地区計画や土地区画整理事業などの手法により、良好な市街地整備を進めます。また、施行中の我孫子駅前土地区画整理事業と布佐駅前まちづくり事業の早期完了をめざします。			事業目的	液状化被害区域では、再液状化時における緊急車両避難場所や、給水活動等を行うためのオープンスペースが必要であり、平成27年度に整備した(仮称)復興支援センターに隣接した市有地に整備を行う。				
(3) 事業内容	内容	・(仮称)復興支援センターに隣接した市有地を活用して再液状化対策のオープンスペース整備工事を行う。			当該年度執行計画	4月~6月(仮称)復興支援センターに隣接した市有地を活用して再液状化対策のオープンスペース整備工事を行い完了させる。				
		当該年度活動結果指標	再液状化対策オープンスペース整備工事の進捗率	単位	%	想定値	100			
(4) 達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)				指標種類	指標		単位	(5) 現況値	(6) 目標値
当該(開始)年度	(仮称)復興支援センターに隣接した市有地を活用した再液状化対策のオープンスペース整備工事を完了させる。				直接	再液状化対策オープンスペース整備工事の進捗率		%	60	100
3年後	(仮称)復興支援センターに隣接した市有地を活用した再液状化対策のオープンスペース整備工事を完了している。				直接	再液状化対策オープンスペース整備事業の進捗率		%	100	100
最終(概ね5年後)	(仮称)復興支援センターに隣接した市有地を活用した再液状化対策のオープンスペース整備工事を完了している。				直接	再液状化対策オープンスペース整備事業の進捗率		%	100	100
(7) 事業実施上の課題と対応	(仮称)復興支援センターに隣接した市有地を活用した再液状化対策のオープンスペース整備工事にあたり、地域住民との調整が必要となる。				代替案検討	○有 ●無				
(8) 施行事項	実施内容 費用	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		
		政策	内容	金額(千円)	政策	内容	金額(千円)	政策	内容	金額(千円)
		*	防災施設建設費(復興支援センター)	76,658	*	再液状化対策オープンスペース整備工事	3,000			
		*	手数料	366	*	実施設計費	396			
		*	工事監理費	3,642						
		*	給水負担金	443						
			合計	81,109		合計	3,396		合計	0
			国庫支出金	0		補助率	0%		補助率	0%
			県支出金	0		補助率	0%		補助率	0%
			起債	0		充当率	0%		充当率	0%
	一般財源	9			96			0		
	その他の財源	81,100		□特会 □受益 □債務 ■基金 □その他	3,300		□特会 □受益 □債務 □基金 □その他	0		
	換算人数(人)	0.8			0.4			0		
	正職員人件費	7,280			3,560			0		
	嘱託職員報酬額	300			0			0		
	臨時職員賃金額	0			0			0		
	事業費(予算(済)額+正職員人件費)	88,389			6,956			0		
	(11) 単位費用 (事業費/活動結果指標)	883.89千円/%		69.56千円/%						

2. 事業の評価 (DO+CHECK)										
必要性	評価項目	事前評価				事後評価(評価結果に応じ、改善案検討(拡充も含む))				改善検討
	(1) 事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	液状化現象で大きな被害を受けて当地区では、再液状化時における被災者支援の場所が必要であるため、オープンスペースの整備を行う。				○①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由/想定どおりでなかった原因＞				○要 ○不要
	(2) 市が実施する必要性はあるか？(市実施の必要性)	○①民間企業、NPO、市民団体等では実施できない(理由) □法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他 ●②自治体である市が推進すべきである(理由) □市が主導で進めることにより実効性が得られる □市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される ■市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他		＜その他の内容＞		○①民間企業、NPO、市民団体等では実施できなかった □②市が主導で進めなければ実効性がなかった □③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給が確保された □⑦その他 ＜その他の内容＞		＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞		○要 ○不要
参加・協働の工夫	参加・協働の内容	●①事業計画時に市民の参画有り ○②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 ＜その他の内容＞		工夫の具体的な内容 事業の実施にあたり、被災者や近隣住民と協議・調整を行う。		実施した参加・協働の具体的な内容(又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容)		参加・協働の程度・内容 ○①当初期待した以上 ○②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由/期待以下であった原因＞		○要 ○不要
	環境への配慮	配慮の視点 □①自然環境を生かしている □②生き物と共存している □③手賀沼を意識している ■④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 ＜その他の内容＞		取組む内容 低振動・低騒音の機器を使用する。		実施した具体的な内容		環境への配慮 ○①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞		○要 ○不要
効率性	(1) 目標設定は適切か？	現況値(a)(%)	目標値(b)(%)	目標値の妥当性のチェック ■①客観的なデータ・事実に基づき設定している □②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象がある場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である		達成状況	実績値(f)(%)	達成率(%) (f/b×100)	○①目標値達成 ○②目標値未達成 ＜目標を達成した理由/未達成となった原因＞	○要 ○不要
	(2) 事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減 事業費(c)(千円)	事業費削減額(d)(千円)	実施予定の対策 □①国・県助成制度活用 □⑤PFI等民間資本の活用 □②現有体制での対応 □⑥受益者負担 □③維持管理費の削減策の実施 □⑦その他 □④民間委託 ＜削減の内容＞		実施状況	実績値(g)(千円)	対事業費(%) (g/c)×100	○①想定事業費未済 ○②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 事業費の削減対策について ○①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	○要 ○不要
	(3) 目標値を実現するために投じる事業費は適正か？(目標対費用)	目標値対事業費(e)		計算方法 ●①単年度の指標：目標値×費用単位/事業費 ○②複数年度の指標：(目標値-現況値)×費用単位/事業費		達成状況	実績値(h)	対目標値(%) (h/e)×100	○①目標値以上 ○②目標値と同程度 ○③目標値以下 ＜目標値以上となった理由/目標値以下であった原因＞	○要 ○不要

3. 事後評価									
○現状どおり推進 ○拡充 ○縮小 ○結合 ○休止 ○廃止 ○事業手法見直し ○その他(事業完了など)									

評価	評価コメント	改善策及び展開方向
----	--------	-----------